

要件定義のプロセス改善を目指した、政府調達における現実の問題状況分析に関する研究

日本電気株式会社

片岡洋介

h-kataoka@nb.jp.nec.com

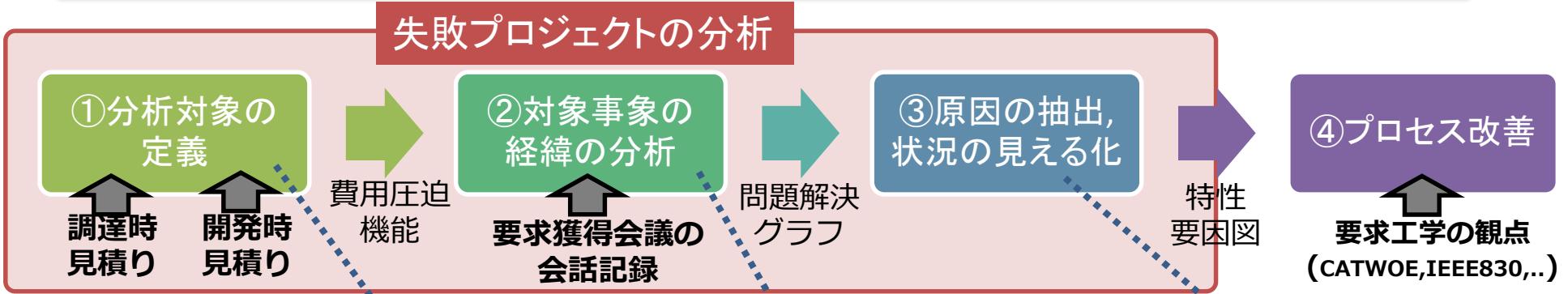
政府調達における問題点

政府調達では、入札により費用とスケジュールが確定しながら、要求範囲にのみずれがある状況が発生する。入札後の要件定義にて、早期合意を図ることになるが、要件定義は複合的な要因の影響を受ける環境であり、単一の手法による解決が難しい。複雑な状況に対応するためには、プロセスを常に改善していく必要がある。

手法・ツールの適用による解決

過去に要件定義に失敗したプロジェクトの原因の調査を行う。手法として、問題の経緯を見える化するために、要求獲得会議の会話記録の分析を、問題解決グラフ、特性要因図を用いて行う。抽出した状況に対して、要求工学の手法(例: CATWOE定義)による状況の解決を考察し、プロセス改善提案につなげる。

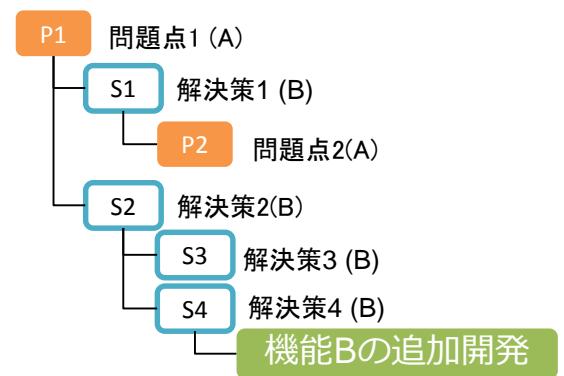
過去のプロジェクトの分析手順



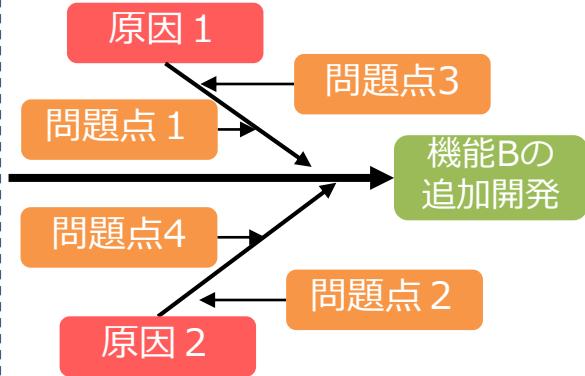
要件定義前後の見積り差分から費用を圧迫した機能を特定

機能	調達時	開発前	分類
A	0.2人月	0.1人月	当初見積り内
B	0.5人月	1.0人月	見積り超過
C		0.3人月	想定外機能
D	0.4人月		不要機能

会話の流れを問題点と解決策で経緯を要約し構造化



経緯上の問題点から原因を抽出。問題状況を見える化



分析結果

- ・要件定義に失敗した過去のプロジェクトに対して、問題発生状況を抽出した。
- ・会話記録を分析することで、要件定義の中で別の導入目的が出現、密接に絡む機能を追加開発することとなった状況が見える化された。
⇒ 導入目的のずれは、早期の吸収が必要
- ・導入目的をCATWOE定義により成文化し、ユーザ視点で違いを明確化できることを確認。
- ・要求仕様書の妥当性に関する、仕様書品質の問題が見られたが、記述量が少なく考察に至らなかった。

プロセス改善案

- ・導入目的は管理しコントロールすることが必要
- ・要件定義早期に、導入目的をCATWOE定義のセットを用いて成文化。ユーザと摺り合せを行う

評価

- ・導入目的の追加が起こした状況の発見には成功。
- ・問題解決グラフからは、状況の解釈に必要な前提条件や導入目的の機械的抽出は難しかった。
⇒ 会話記録を要約する手法の改良が必要
- ・要求仕様書の品質の考察は、別ケースでの分析が必要